

# GD-26・27・28・29シリーズ

## 減圧弁

### 取扱説明書

この度はヨシタケ製品をお買上げ頂きまして誠にありがとうございました。  
お求めの製品を正しく安全にご使用して頂くために、ご使用になる前に必ず本文をお読みください。  
又、この書類はご使用されるお客様にて大切に保存して頂きますようお願い致します。

-----本書の中で使用されている記号は以下のようになっています。-----



**警告**

取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険の状態が生じることが想定される場合。



**注意**

取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか又は物的損害のみが発生する危険の状態が生じることが想定される場合。

#### 目 次

1. 仕様および性能	
1.1 仕様	1~3
1.2 呼び径選定	3~5
1.3 流量特性線図	5
1.4 圧力特性線図	6
1.5 騒音特性線図	6~7
2. 寸法および質量	8~11
3. 作動説明	11
4. 設置要領	
4.1 配管図例	11
4.2 製品設置時の警告・注意事項	12~13
5. 運転要領	
5.1 製品運転時の警告・注意事項	14
5.2 調整方法	14
6. 保守要領	
6.1 故障と対策	15
6.2 保守・点検時の警告・注意事項	16
6.3 分解方法	16~17
6.4 組立時の注意事項	17
6.5 ストレーナ掃除方法	18
7. 分解図	19~20
アフターサービスについて	

**YOSHITAKE**

## 1. 仕様および性能

### 1.1 仕様

型式	GD-26-NE	GD-27-NE	GD-27F-N	GD-28-NE	GD-29-NE
呼び径	15A~50A	25A~100A	125,150A	15A~50A	25A~100A
適用流体	冷温水				
一次側圧力	1.0MPa以下			1.6MPa以下	
二次側圧力	A	0.05~0.35 MPa	0.05~0.20 MPa	0.05~0.35 MPa	
	B	0.30~0.70 MPa	0.20~0.50 MPa	0.30~0.70 MPa	
最小差圧	0.05MPa				
最大減圧比	10:1				
流体温度	5~90℃				
材質	弁箱	青銅(NPb処理)			
	弁座	青銅(NPb処理)			
	弁体ディスク	FKM			
	ダイヤフラム	耐塩素EPDM	FKM	耐塩素EPDM	
管端コア	無し				
接続	JIS Rc	JIS 10KFF フランジ		JIS Rc	JIS 16KFF フランジ

- 15A~50Aはストレーナ(40メッシュ)内蔵です。65A~150Aはストレーナ内蔵していません。
- 圧力計接続用のねじはR1/8です。(φ40、0.5MPa用、1.0MPa用)
- 125A, 150Aの最大差圧は0.8 MPaです。
- GD-26-NE, GD-27-NE, GD-27F-N, GD-28-NE, GD-29-NEは水道法基準適合品です。

型式	GD-26L-NE	
呼び径	15A~50A	
適用流体	冷温水	
一次側圧力	1.0MPa以下	
二次側圧力	A	0.05~0.35 MPa
	B	0.30~0.70 MPa
最小差圧	0.05MPa	
最大減圧比	10:1	
流体温度	5~40℃	
材質	弁箱	青銅(NPb処理)
	弁座	青銅(NPb処理)
	弁体ディスク	FKM
	ダイヤフラム	耐塩素EPDM
管端コア	塩ビライニング鋼管 ポリ粉体鋼管共用	
接続	JIS Rc	

- 15A~50Aはストレーナ(40メッシュ)内蔵です。
- 圧力計接続用のねじはR1/8です(φ40、0.5MPa用、1.0MPa用)。
- GD-26L-NEは水道法基準適合品です。

型式	GD-26S	GD-27S	GD-26S-NE	GD-27S-NE	GD-28S	GD-29S
呼び径	20A~50A	20A~100A	20A~50A	20A~100A	20A~50A	20A~100A
適用流体	冷温水					
一次側圧力	1.0MPa以下				1.6MPa以下	
二次側圧力	A	0.05~0.35 MPa				
	B	0.30~0.70 MPa				
最小差圧	0.05MPa					
最大減圧比	10:1					
流体温度	5~90℃					
材質	弁箱	ステンレス鋳鋼				
	弁座	ステンレス鋳鋼				
	弁体ディスク	EPDM	FKM		EPDM	
	ダイヤフラム	耐塩素EPDM				
管端コア	無し					
接続	JIS Rc	JIS 10KFF フランジ	JIS Rc	JIS 10KFF フランジ	JIS Rc	JIS 16KFF フランジ

- 15A~50Aはストレーナ(40メッシュ)内蔵です。65A~100Aはストレーナ内蔵していません。
- 圧力計接続用のねじはR1/4です。  
(外径φ42-MAX1.0MPa・0.4MPa・0.2MPa用からお選びください)
- GD-26S-NE, GD-27S-NEは水道法基準適合品です。
- FKM(バイトン)仕様も製作いたします(GD-26S、GD-27S)。

## ⚠ 注意

(1) 製品に付いている銘板の表示内容と注文された型式の仕様内容を確認してください。又、ご使用の条件が、仕様内容に適合していることを確認してください。  
 ※内容が違っている場合は、使用しないで弊社にお問い合わせください。

### 1.2 呼び径選定

#### ●呼び径選定方法

(1) 弁前後の差圧が0.15MPa以上の場合は定格流量表より呼び径を選定してください。

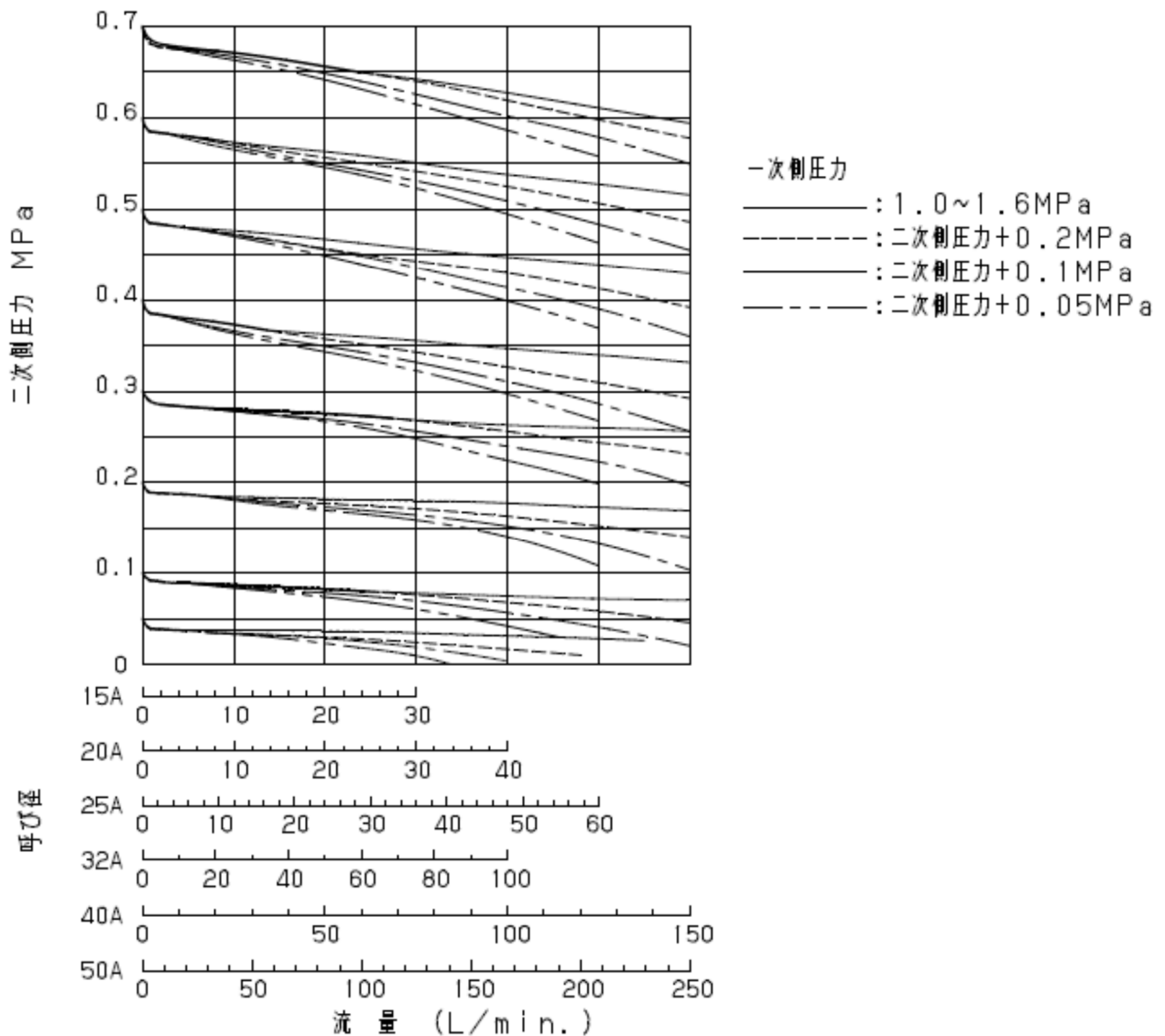
定格流量表(弁前後の差圧0.15MPa以上です。)

呼び径	15A	20A	25A	32A	40A	50A	65A	80A	100A	125A	150A
定格流量(L/min)	30	40	60	100	150	250	300	450	700	1600	1800

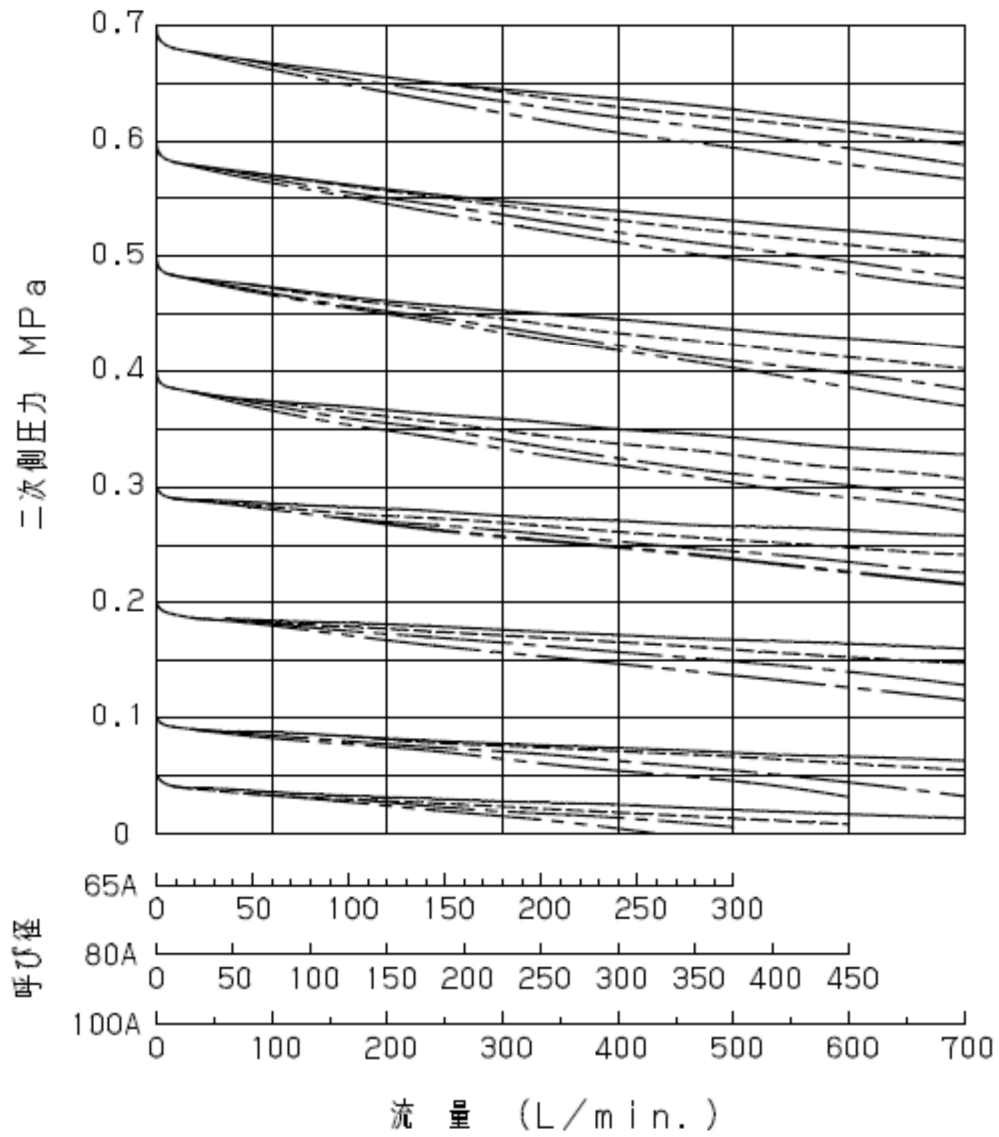
(2) 弁前後の差圧が0.15MPa未満の場合は呼び径選定図より選定してください。

#### ●呼び径選定図

〈呼び径: 15A~50A〉



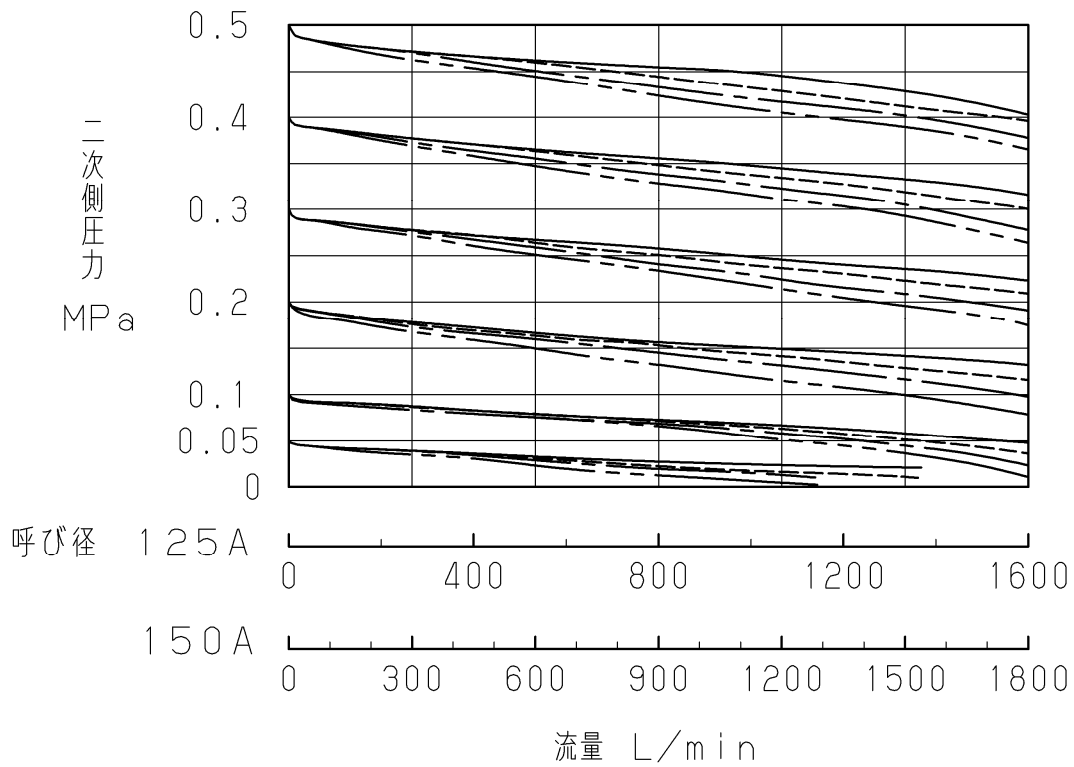
〈呼び径：65A～100A〉



一次側圧力

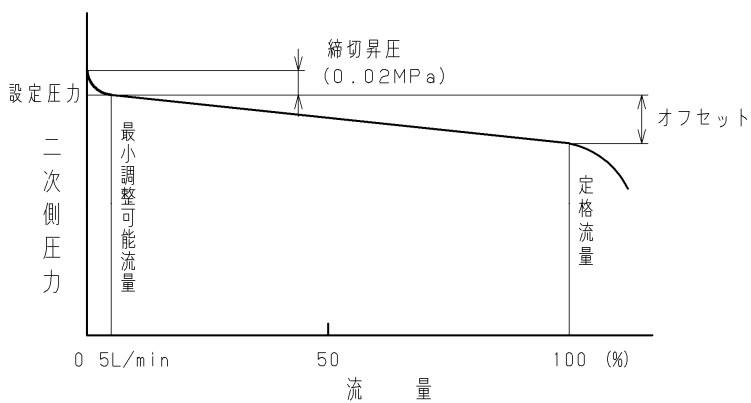
- : 1.0~1.6MPa
- : 二次側圧力+0.2MPa
- : 二次側圧力+0.1MPa
- : 二次側圧力+0.05MPa

〈呼び径：125A～150A〉



- 一次側圧力 ————— : 0.5～1.0MPa
- : 二次側圧力+0.2MPa
- - - - - : 二次側圧力+0.1MPa
- · — · — : 二次側圧力+0.05MPa

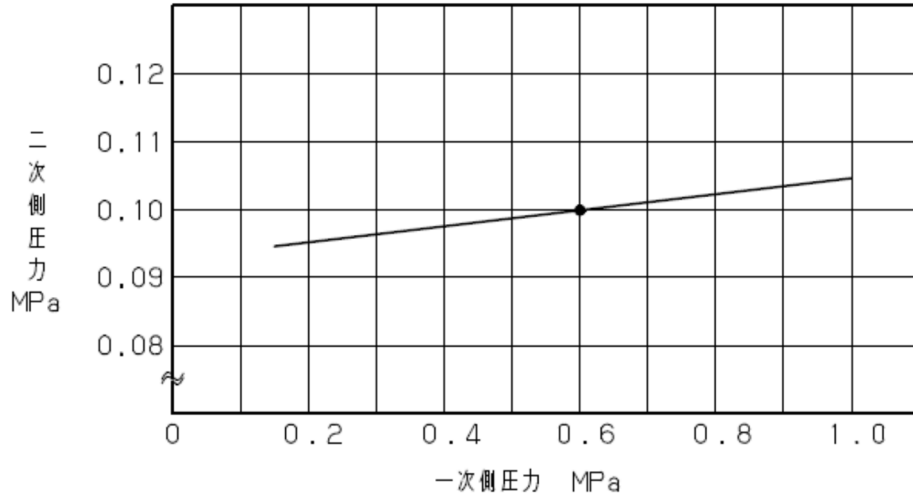
1.3 流量特性線図



オフセット

呼び径	区分	二次側圧力範囲	オフセット
15～100A	A	0.05～0.35MPa	0.05MPa以内
	B	0.30～0.70MPa	0.10MPa以内
125,150A	A	0.05～0.20MPa	0.07MPa以内
	B	0.20～0.50MPa	0.12MPa以内

#### 1.4 圧力特性線図

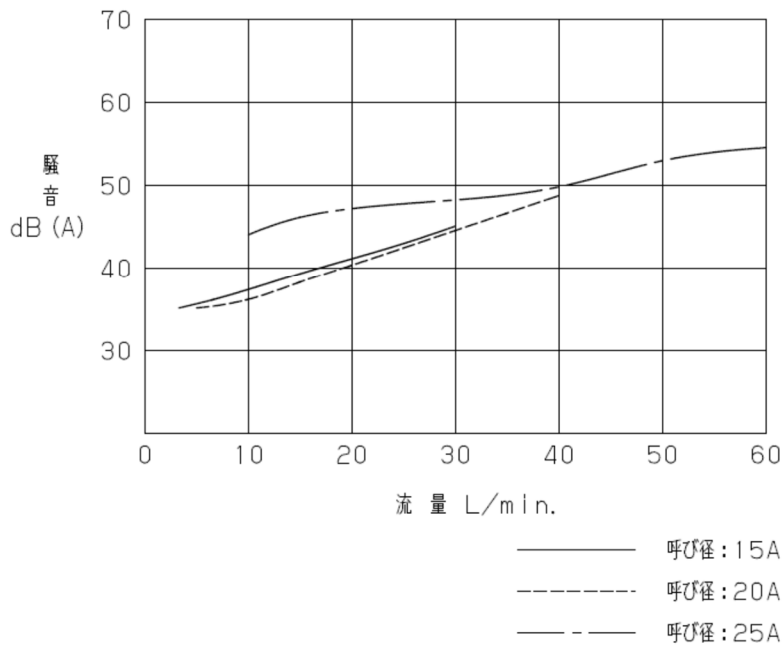


一次側圧力0.6MPaの時、二次側圧力を0.10MPaに設定し、一次側圧力を0.15~1.0MPaに変化させた時の二次側圧力の変動を示します。

#### 1.5 騒音特性線図(流体:水)

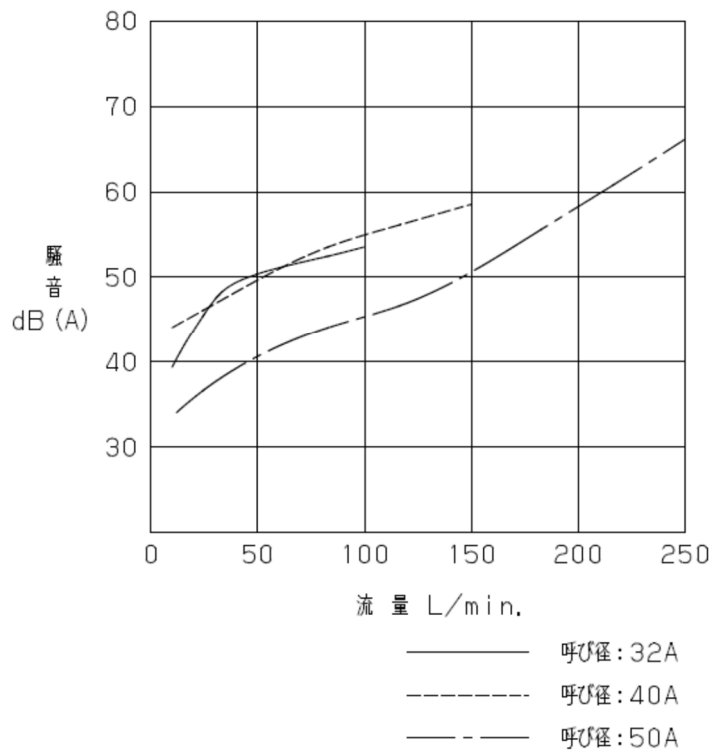
〈呼び径:15A~25A〉

一次側圧力:0.6MPa  
二次側圧力:0.2MPa



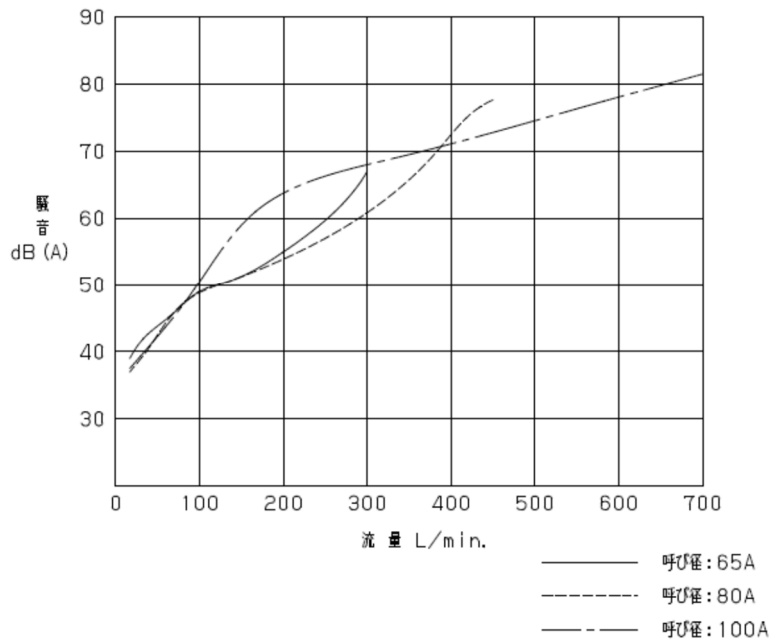
〈呼び径：32A～50A〉

一次側圧力：0.6MPa  
二次側圧力：0.2MPa



〈呼び径：65A～100A〉

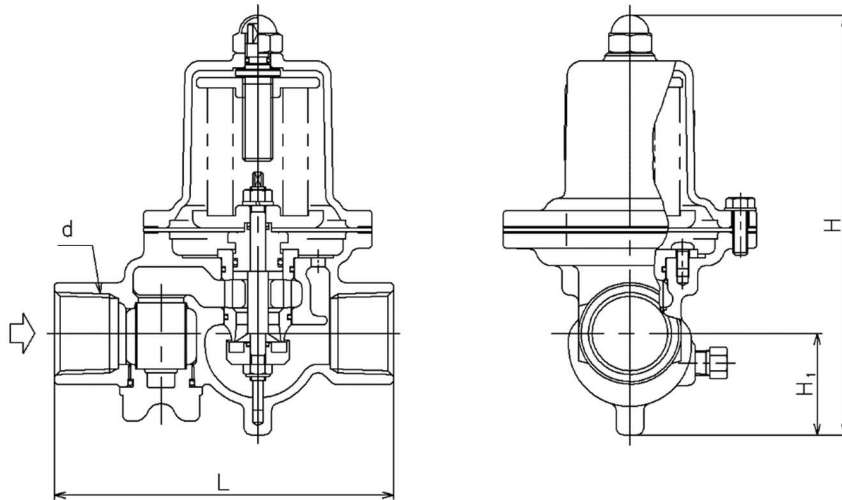
一次側圧力：0.6MPa  
二次側圧力：0.2MPa





## 2. 寸法および質量

●GD-26-NE・GD-28-NE・GD-26L-NE・GD-26S・GD-26S-NE・GD-28S型



GD-26-NE・GD-28-NE・GD-26L-NE 型

(mm)

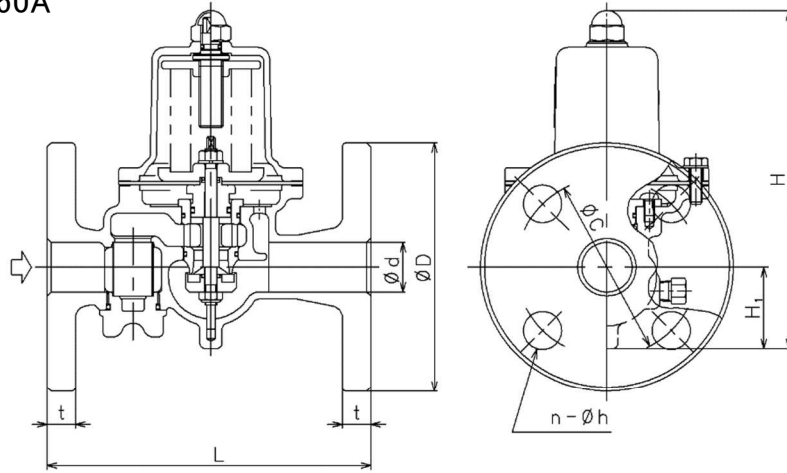
呼び径	d	L	H <sub>1</sub>	H	質量 (kg)
15A	Rc 1/2	115	37.5	159.5	1.6
20A	Rc 3/4	120	38.5	159.5	1.7
25A	Rc 1	135	41	170	2.1
32A	Rc 1 1/4	180	57	224	4.0
40A	Rc 1 1/2	180	57	224	4.4
50A	Rc 2	200	61	239.5	6.5

GD-26S・GD-26S-NE・GD-28S 型

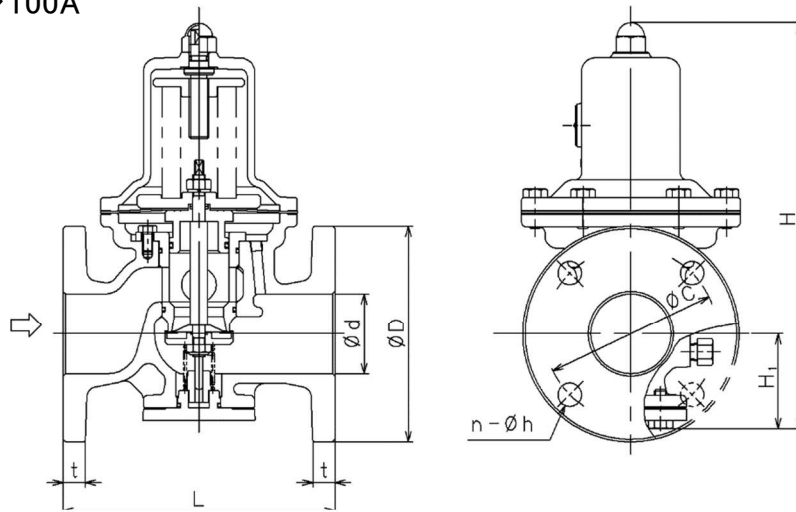
(mm)

呼び径	d	L	H <sub>1</sub>	H	質量 (kg)
20A	Rc 3/4	135	41	170	2.2
25A	Rc 1	135	41	170	2.2
32A	Rc 1 1/4	180	57	224	4.7
40A	Rc 1 1/2	180	57	224	4.5
50A	Rc 2	200	61	239.5	6.5

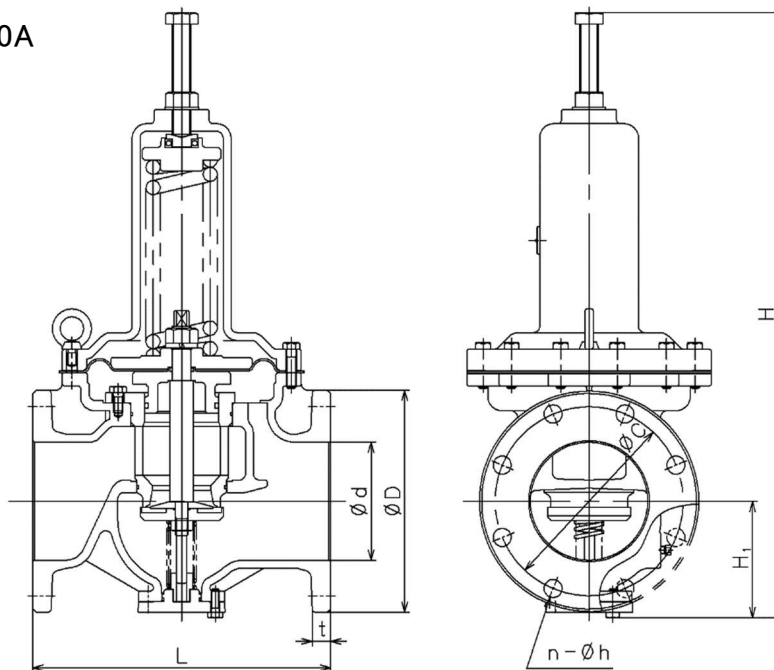
● GD-27-NE・GD-29-NE・GD-27S・GD-27S-NE・GD-29S型  
 呼び径25A～50A



呼び径65A～100A



● GD-27F-N型  
 呼び径125A,150A



## GD-27-NE・GD-27F-N型

(mm)

呼び径	L	H <sub>1</sub>	H	JIS 10K FF フランジ					質量 (kg)
				d	D	C	t	n-φh	
25A	160	41	170	25	125	90	14	4-19	5.1
32A	200	57	224	32	135	100	16	4-19	7.5
40A	200	57	224	40	140	105	16	4-19	7.7
50A	220	61	239.5	50	155	120	16	4-19	10.9
65A	220	77	329	65	175	140	18	4-19	20.0
80A	230	82	345	80	185	150	18	8-19	22.0
100A	270	94	412	100	210	175	18	8-19	33.0
125A	360	148	771	125	250	210	20	8-23	90.0
150A	380	148	771	150	280	240	22	8-23	97.0

※GD-27-NEは25A～100A、GD-27F-Nは125A、150Aのみとなります。

## GD-29-NE型

(mm)

呼び径	L	H <sub>1</sub>	H	JIS 16K FF フランジ					質量 (kg)
				d	D	C	t	n-φh	
25A	160	41	170	25	125	90	14	4-19	5.1
32A	200	57	224	32	135	100	16	4-19	7.5
40A	200	57	224	40	140	105	16	4-19	7.7
50A	220	61	239.5	50	155	120	16	8-19	10.9
65A	220	77	329	65	175	140	18	8-19	20.0
80A	234	82	345	80	200	160	20	8-23	24.0
100A	278	94	412	100	225	185	22	8-23	36.5

## GD-27S・GD-27S-NE型

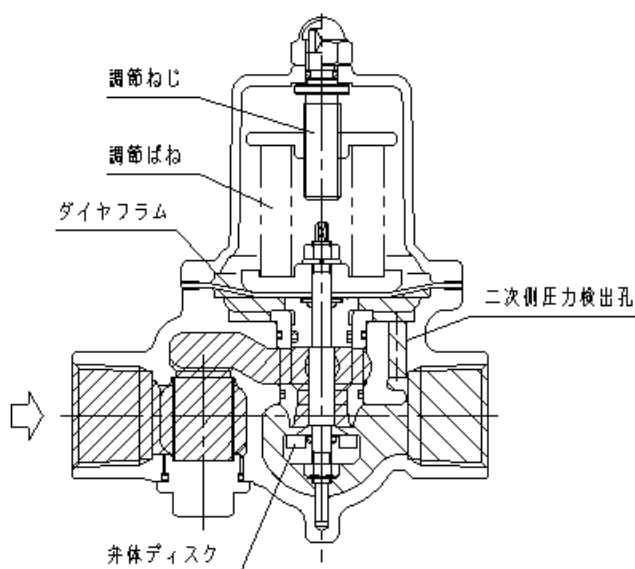
(mm)

呼び径	L	H <sub>1</sub>	H	JIS 10K FF フランジ					質量 (kg)
				d	D	C	t	n-φh	
20A	160	41	170	20	100	75	14	4-15	3.9
25A	160	41	170	25	125	90	14	4-19	4.8
32A	200	57	224	32	135	100	16	4-19	8.0
40A	200	57	224	32	140	105	16	4-19	8.3
50A	220	61	239.5	50	155	120	16	4-19	10.8
65A	220	77	329	65	175	140	18	4-19	20.6
80A	230	82	345	80	185	150	18	8-19	22.0
100A	270	94	412	100	210	175	18	8-19	34.5

(mm)

呼び径	L	H <sub>1</sub>	H	JIS 16K FF フランジ					質量 (kg)
				d	D	C	t	n-φh	
20A	160	41	170	20	100	75	14	4-15	3.9
25A	160	41	170	25	125	90	14	4-19	4.8
32A	200	57	224	32	135	100	16	4-19	8.0
40A	200	57	224	32	140	105	16	4-19	8.3
50A	220	61	239.5	50	155	120	16	8-19	10.8
65A	220	77	329	65	175	140	18	8-19	20.6
80A	234	82	345	80	200	160	20	8-23	25.0
100A	278	94	412	100	225	185	22	8-23	36.5

### 3. 作動説明



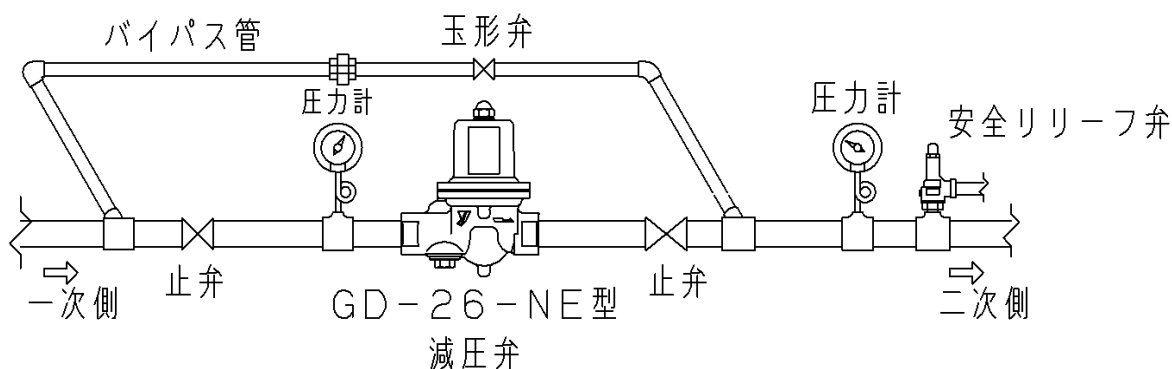
調節ねじにより調節ばねを圧縮し、ダイヤフラムを押し下げ、それに直結された弁体ディスクを開きます。

一次側より入った流体は弁体ディスク上部から二次側へ流出すると同時に二次側圧力検出孔を通りダイヤフラム下部に導かれます。

ダイヤフラムは、調節ばねの荷重と二次側圧力とが働き、この上下の力がつり合いをとり弁開度を調整する事で二次側圧力を一定に保ちます。

### 4. 設置要領

#### 4.1 配管図例



※呼び径65A～150Aの減圧弁一次側には、ストレーナを設置してください。

## 4.2 製品設置時の警告・注意事項

### ⚠ 警告

- (1)呼び径125A、150Aは重量物ですので、配管への取付けの際には吊上げ装置などを使用して製品を確実に支えてください。なお、製品質量については「2. 寸法及び質量」をご覧ください。  
※製品の落下などによって怪我をする恐れがあります。
- (2)製品出口側に機器の保護用として安全リリーフ弁を取付ける場合、安全リリーフ弁の出口側には吹出し管を接続し、流体が吹出しても安全な場所に導いてください。  
※高温流体が吹き出した場合、火傷をする危険があります。

### ⚠ 注意

- (1)製品は、むやみに分解しないでください。  
※むやみに分解しますと、製品は正常に作動しません。
- (2)製品を配管する際、配管内の異物・スケール等を必ず除去してください。また、配管接続に使用するシールテープ・液状シール剤など、配管内に異物が入らないようにしてください。  
※製品内に異物・スケール・シール剤等が混入しますと、弁座漏れ、作動不良などの原因になります。
- (3)内部部品に悪影響を与える成分が流体中及び環境に含有されている場合、ゴム部品などの劣化が促進され外部漏れの発生や機能障害が発生します。
- (4)呼び径65A～150Aの製品の入口側には、必ずストレーナを取付けてください。  
※異物・スケール等が混入しますと、作動不良の原因につながります。ストレーナのメッシュは、60メッシュ以上をお薦めします。
- (5)製品の出口側には、二次側の機器を保護するため、安全リリーフ弁を取付けてください。  
※製品の異常を確認することができず、機器等が破損する恐れがあります。
- (6)製品の入口側・出口側には、必ず圧力計を取付けてください。  
※正しい圧力調整ができません。
- (7)電磁弁等の急開閉弁を取付ける場合は、製品から3m以上離してください。  
※製品の作動不良や寿命が著しく短くなる恐れがあります。
- (8)取付けは出入口、姿勢を確認して取付けてください。  
※取付けを間違えますと、製品の機能が果たされません。
- (9)製品に無理な荷重、曲げ、振動などが伝わらないように配管してください。
- (10)型式GD-26-NE・28-NEの二次側は、青銅製又はステンレス製ニップルでの配管をしてください。  
※製品の二次側を鋼管(ライニング鋼管)等で配管しますと、鋼管端面の腐食(さびこぶ等)が年々増加し、製品の二次側検出部を塞ぎ水が流れにくくなる恐れがあります。
- (11)配管取付け方向は水平・垂直任意です(呼び径15A～100A)。但し、呼び径125A、150Aは水平方向で取付けてください。
- (12)分解点検にはH<sub>2</sub>以上のスペースが必要です。又、内蔵ストレーナ点検は、H<sub>3</sub>以上のスペースが必要です(呼び径15A～50A)。
- (13)二段減圧する場合は、製品間の距離を3m以上離して取付けてください。  
※作動不良等が発生し、正常に作動しない場合があります。

● GD-26-NE・GD-27-NE・GD-28-NE・GD-29-NE・GD-27F-N・GD-26L-NE型

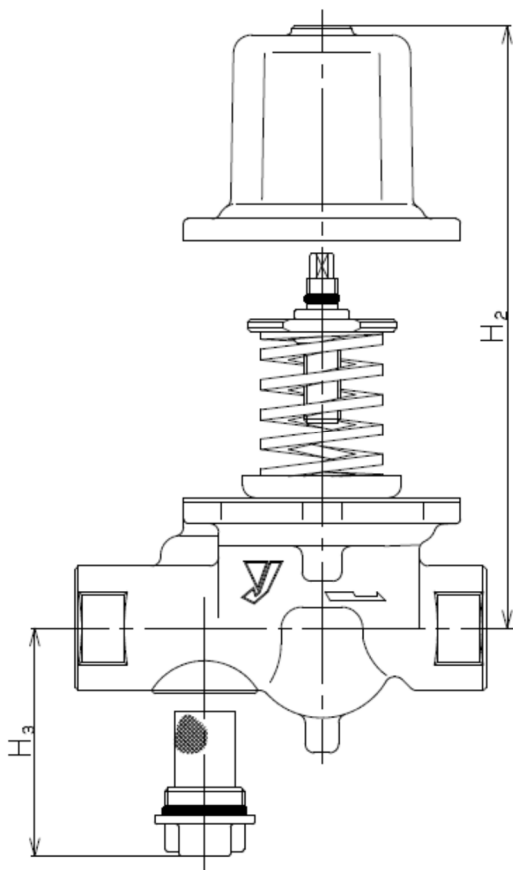
(mm)

呼び径	15A	20A	25A	32A	40A	50A	65A	80A	100A	125A	150A
H <sub>2</sub>	240	240	250	300	300	320	450	450	550	970	970
H <sub>3</sub>	80	80	90	120	120	150	—	—	—	—	—

● GD-26S・GD-27S・GD-28S・GD-29S・GD-26S-NE・GD-27S-NE型

(mm)

呼び径	20A	25A	32A	40A	50A	65A	80A	100A
H <sub>2</sub>	250	250	300	300	320	450	450	550
H <sub>3</sub>	90	90	120	120	150	—	—	—



## 5. 運転要領

### 5.1 製品運転時の警告・注意事項

#### 警告

- (1)高温流体の場合は、素手で直接製品に触れないようにしてください。  
※火傷をする危険があります。
- (2)流体を流す前に、配管末端まで流体が流れても危険のないことを確認してください。

#### 注意

- (1)通水時には製品前後の止弁を閉弁し、必ずバイパス管にて異物・スケール等を完全に除去してからご使用ください。  
※製品内に異物・スケール等が混入しますと、本来の性能が活かされません。
- (2)圧力調整は調節ねじをゆっくり回して調節してください。  
※ハンチング等を起し、製品や機器を破損する恐れがあります。
- (3)減圧弁の二次側を閉止状態とし、長期間製品内に流体を保有させると摺動部品が固着し、作動不良となります。  
※再稼動時には、正常に作動するか確認してください。
- (4)凍結の恐れがある場合や長期休止される場合は、製品や配管内の流体を完全に抜き製品前後の止弁を閉じてください。  
※製品や配管内の錆発生による故障、あるいは凍結による破損の恐れがあります。
- (5)製品周りの温度(外部温度)や流体温度により、設定圧力が変化する可能性があります。  
直接日光が当るような配管はしないでください。

### 5.2 調整方法(7. 分解図参照)

減圧弁の調整方法を間違えますと、ハンチング、スケール障害等を起したり、要部を著しく損傷したりする場合がありますので調整する場合は必ず下記の順序にて行ってください。

- (1)減圧弁前後の止弁を閉止し、バイパス管にて十分に時間をかけて流体をブローしてください。この時、安全リリーフ弁を吹かさないうえバイパス管の玉形弁開度を調整してください。ブロー終了後、玉形弁は必ず閉止してください。
- (2)一次側止弁をゆっくりと全開にし、二次側止弁は流体が僅かに流れる様に少し開きませず。
- (3)六角袋ナット⑰を外し(呼び径125A,150Aは六角ナット④を緩めます)、二次側の圧力計を見ながら調節ねじ⑭を回転させます。  
・右方向(時計方向)に回すと二次側圧力が上がります。  
・左方向(反時計方向)に回すと二次側圧力が下がります。
- (4)二次側の止弁をゆっくり全開にします。
- (5)調整完了後、六角袋ナット⑰(呼び径125A,150Aは六角ナット④)を締めてください。

## 6. 保守要領

### 6.1 故障と対策(7. 分解図参照)

故障状況	故障原因	対策及び処置
所定以上に二次側圧力が上昇する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 弁体ディスク⑧、弁座③に異物の噛み込みがあるか、又は傷がある。</li> <li>2. Oリング⑥が損傷している。</li> <li>3. ダイヤフラム⑨が破損している。</li> <li>4. バイパス管の玉形弁が漏れている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分解して異物を除去してください。弁体ディスクまたは弁座に傷がある場合は、交換してください。</li> <li>2. Oリングを交換してください。</li> <li>3. ダイヤフラムを交換してください。</li> <li>4. 玉形弁を修理するか交換してください。</li> </ol>
希望圧力に達しない。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 使用圧力が適正でない。</li> <li>2. 使用流量に対して呼び径が小さすぎる。</li> <li>3. 調整が適正でない。</li> <li>4. 製品に内蔵されているストレーナ⑩が目詰りしている。</li> <li>5. 製品入口側に設置されたストレーナが目詰りしている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適正値に変更してください。(1.1仕様参照)</li> <li>2. 適正な呼び径に変更してください。(1.2呼び径選定参照)</li> <li>3. 調整方法に従って再調整してください。(5.2調整方法参照)</li> <li>4. ストレーナを掃除してください。(6.5ストレーナ掃除方法参照)</li> <li>5. ストレーナを掃除してください。</li> </ol>
外部漏れがある。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 六角ボルト⑮または⑲が緩んでいる。</li> <li>2. Oリング⑳が損傷している。</li> <li>3. ストレーナキャップ⑪またはプラグ㉑が緩んでいる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 六角ボルトを締付けてください。</li> <li>2. Oリングを交換してください。</li> <li>3. ストレーナキャップまたはプラグを締付けてください。</li> </ol>
異常音が出る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仕様に対して呼び径が大き過ぎる。</li> <li>2. 減圧比が大き過ぎるまたは、最大差圧を超えている。</li> <li>3. 空気障害が起きている。</li> <li>4. 減圧弁の近くに急開閉弁がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適正な呼び径に変更してください。</li> <li>2. 二段減圧にしてください。(1.1仕様参照)</li> <li>3. 空気抜き設備を設けてください。</li> <li>4. 距離をできる限り離してください。(最低3m)</li> </ol>

- 減圧弁の故障の大部分は配管路内の砂、ゴミ等のスケールによるものです。配管内の塵埃には十分ご注意ください。
- 圧力計の故障、バイパス管玉形弁の漏れ及び閉め忘れ、ストレーナの目詰まり等で、弁の故障と良く似た現象が発生します。まず前記各事項を確認し、弁の対策及び処置をしてください。



## 6.2 保守・点検時の警告・注意事項

### ⚠ 警告

- (1)製品を分解・点検する時は必ず製品や配管の内部圧力を完全に抜いてから、熟練した専門の方（設備・工事業者の方）が行ってください。  
※内部圧力がある状態で行うと、流体が吹出し、怪我をしたり周辺機器を汚したりします。
- (2)流体が高温の場合、素手で直接製品に触れないでください。  
※火傷をする恐れがあります。

### ⚠ 注意

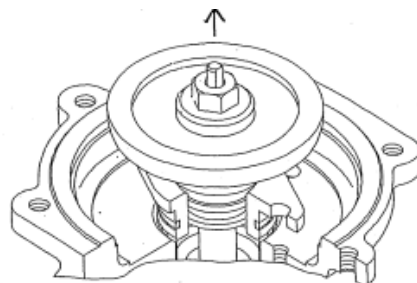
- (1)「6.1故障と対策」に記載された内容以外の故障原因による場合は、弊社にお問い合わせください。
- (2)分解時は内部の流体が流出しますので、容器等で受けてください。  
※周辺を汚す恐れがあります。
- (3)合成ゴムは消耗品です。使用条件によって大きく異なりますが、交換時期の目安は下記の通りです。

推奨交換時期	部品名、部品番号（7. 分解図参照）
3年	ダイヤフラム⑨、リング⑥、弁体ディスク⑧
5年	リング⑳、㉒、㉔、㉖、㉘、㉚、㉜ シール座金㉞

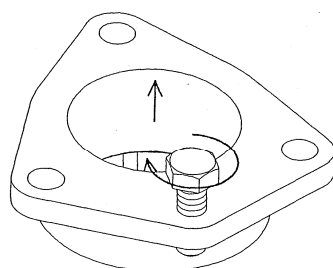
## 6.3 分解方法（7. 分解図参照）

- (1)六角袋ナット⑰を外し（呼び径125A,150Aは六角ナット④を緩めます）、調節ねじ⑭を反時計方向（左回転）に回し、調節ばね⑮をフリーの状態（無荷重）にしてください。
- (2)保護筒②の六角ボルト⑱を取り、保護筒②を外し、調節ばね⑮、ばね受⑬を取り出してください。
- (3)六角ナット⑲を取り、ダイヤフラム押え⑫、ダイヤフラム⑨を外します。
- (4)弁座③のなべ小ねじ㉟（呼び径65A～150Aは六角ボルト㉟）を取り、弁座一式（弁座③、弁棒④、弁体ディスク⑧、リング㉑など）を取り外します。

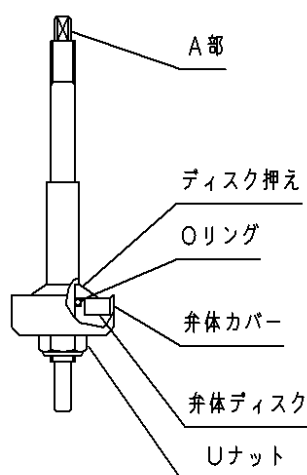
呼び径 15A～50A: 弁棒④にダイヤフラム押え⑫を取り付け、引き上げます。



呼び径 65A～150A: 弁座③に六角ボルトをねじ込み、引き上げます。



(5) 弁棒④A部(二面)を固定し、Uナット⑳を工具で緩め、弁体ディスク⑧、Oリング㉑を取り外します。



#### 6. 4 組立時の注意事項

### ⚠ 注意

- (1) 弁箱内部及び各部品に異物等の付着物が無いことを確認してください。異物が付着しているときは異物等を除去してください。  
※異物等があると本来の性能が活かせません。
- (2) 弁体ディスク、Oリングに傷などが無いことを確認してください。傷などがあるときは部品を交換してください。  
※傷等があると本来の性能が活かせません。
- (3) Oリングにシリコングリス(人体に無害なもの)を塗布してください。  
※シリコングリスを塗布しないと、Oリングが損傷する原因となります。

組立は、分解方法と逆の順序で組立ててください。

保護筒②の六角ボルト⑱を締付ける場合は、片締めにならないよう対角線上に締付けてください。(7. 分解図参照)

## 6.5 ストレーナ掃除方法

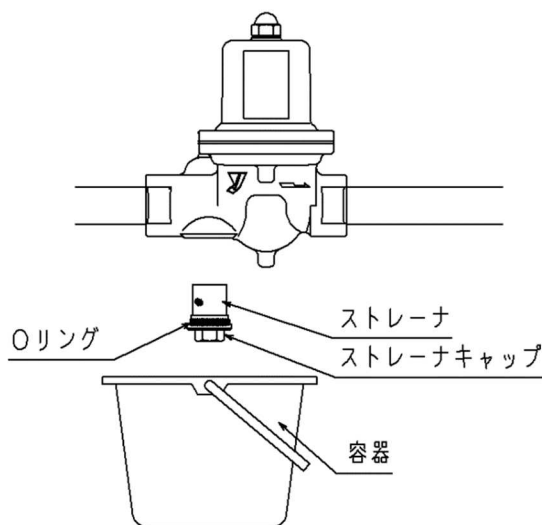
### ⚠ 警告

- (1)流体が高温の場合、素手で直接製品に触れないでください。  
※火傷をする恐れがあります。

### ⚠ 注意

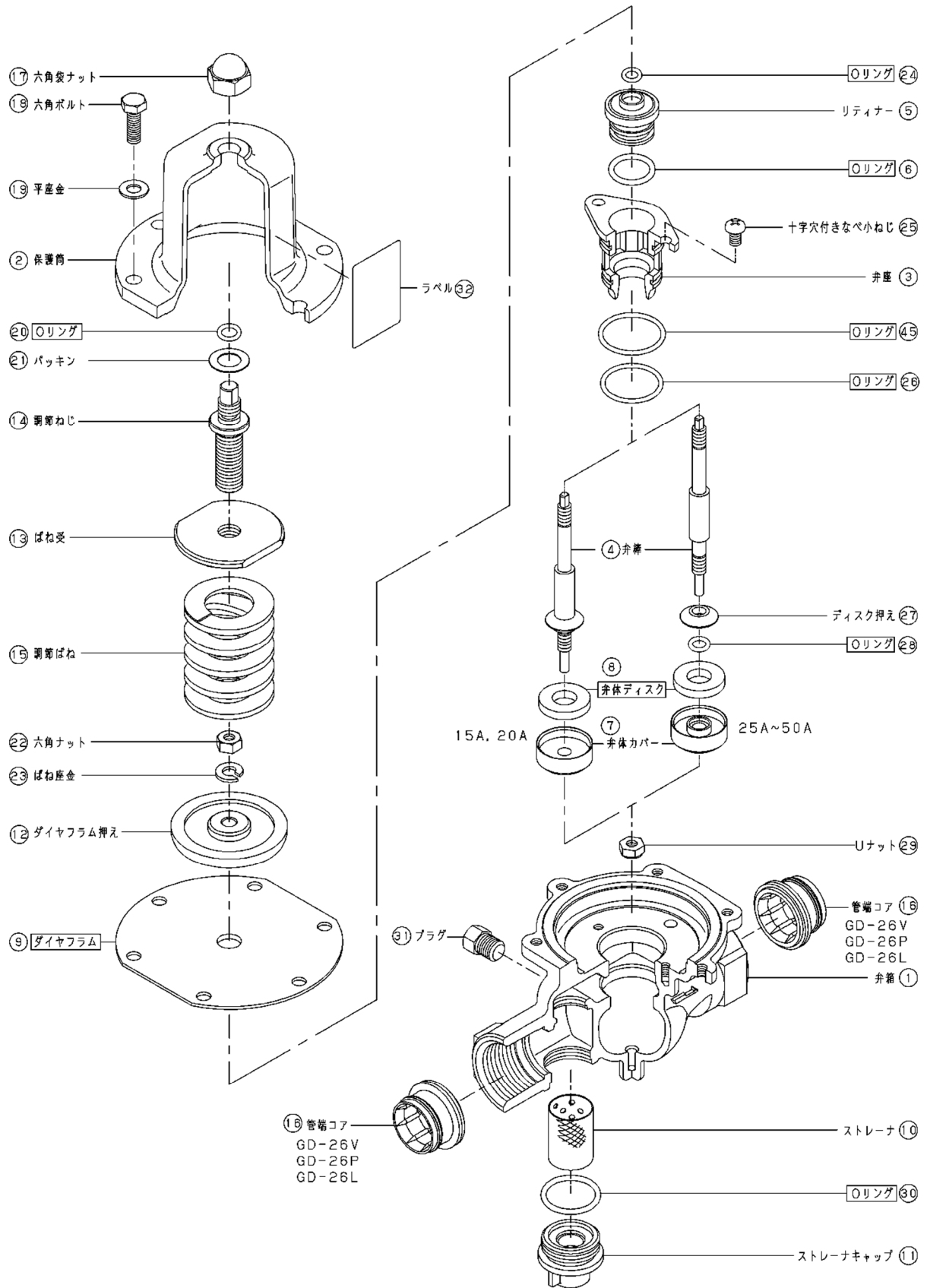
- (1)ストレーナを年に1~2回以上、定期的に掃除してください。  
※スケール等が溜まり過ぎると、流量が低下し本来の性能が活かされません。  
(2)ストレーナキャップを外す時は、流体を容器等で受けてください。(下図参照)

- (1)一次側の止弁を閉止し、末端の止弁を開け、製品の内部圧力を完全に抜きます。  
(2)ストレーナキャップを左へ回し外します。  
(3)ストレーナキャップからストレーナを外して水洗いし、溜まったスケールを取り除きます。  
(4)掃除後、ストレーナ及びストレーナキャップを弁箱に組付けます。  
(5)一次側の止弁を開け、ストレーナキャップ部より漏れが無いことを確認します。漏れがある場合は、Oリングを交換してください。  
(6)末端の止弁を開け、製品が正常に作動することを確認します。



## 7. 分解図

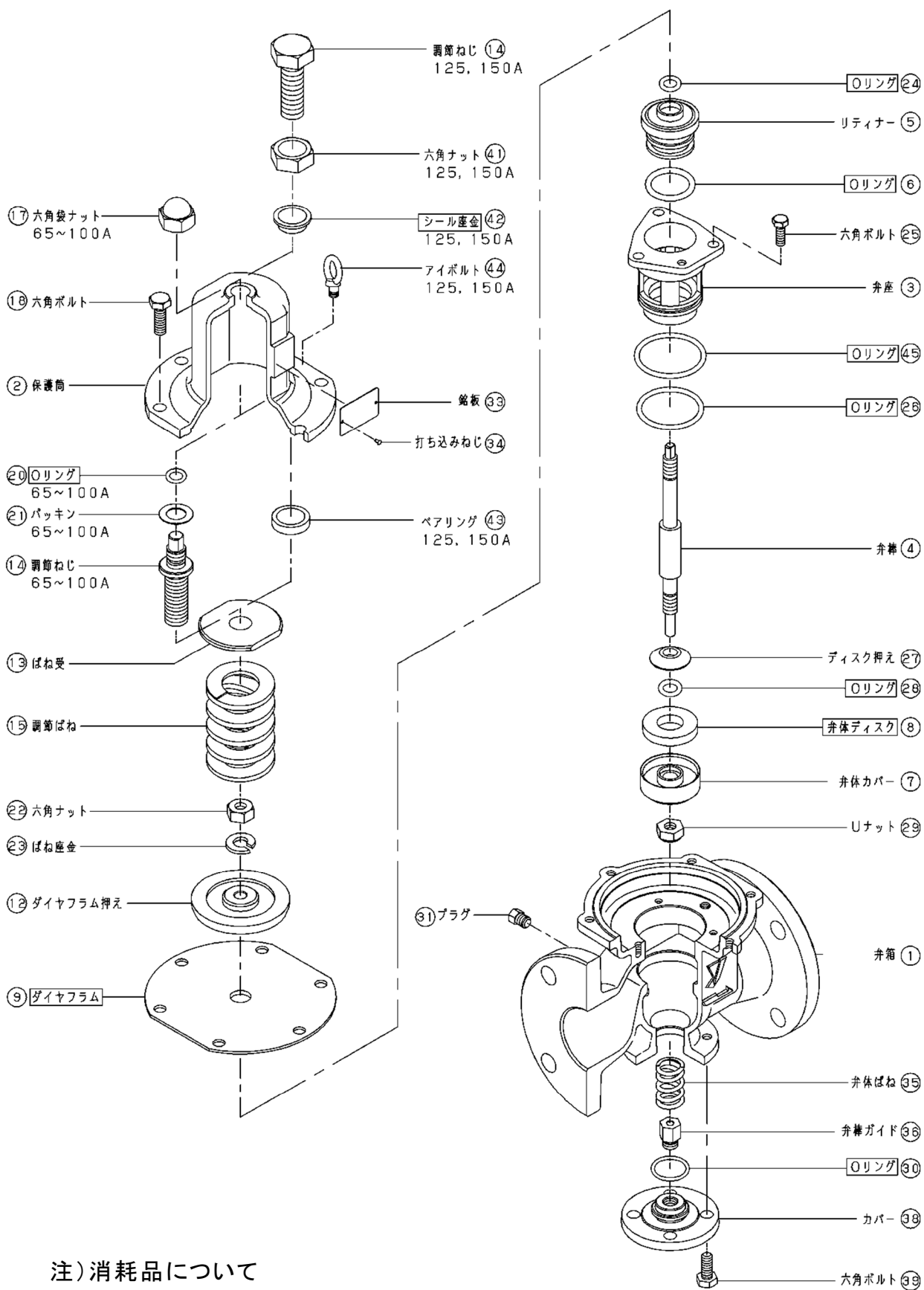
【呼び径：15A～50A】



注) 消耗品について

□ 内部品は、消耗品として用意しています。

【呼び径：65A～150A】



注) 消耗品について

□ 内部品は、消耗品として用意しています。

## アフターサービスについて

### 1. 納入品の保証範囲及び保証期間

納入された製品は高度の技術と厳しい品質管理の基で製造いたしております。取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従って正しくご使用ください。万一材料または製造上の不具合がありました場合には、無料で修理させていただきます。

納入品の保証期間は、ユーザー様に納入し試運転開始後1ヶ年とさせていただきます。

### 2. 製造中止後の部品の供給について

製品は予告なく製造中止、改良を行うことがございます。製造中止した製品の部品の供給は、中止後5年間とします。但し、個別契約に基づく場合は除きます。

### 3. 保証期間内でも次の場合には、有料修理になります。

(1)配管内のゴミ等による弁漏れ、または不安定作動が起こる場合。

(2)不当な取扱い、または使用による場合。

(3)消耗のはなはだしい部品などで、弊社から予めその旨申し出を行っている場合。

(4)異常水圧、異常水質等の供給側の事情による場合。

(5)水垢もしくは凍結に起因する場合。

(6)電源、空気源に起因する場合。

(7)弊社以外の不適當な改造がされた場合。

(8)設計仕様条件を超えた過酷な環境下(たとえば屋外使用による腐食の場合など)での使用による場合。

(9)火災、水害、地震、落雷その他天災地変による場合。

(10)消耗部品(たとえばテクニカルガイドブックに記載されているOリング、ガスケット、ダイヤフラムなど)

ここでいう保証は納入品単体の保証を意味するもので納入品の故障や瑕疵により誘発される損害については、含まれませんのでご了承ください。

### 4. 保証期間経過後、修理を依頼されるとき

修理により製品の機能が維持できる場合には、ご要望により有料で修理します。なお、アフターサービスについては、弊社ホームページ([www.yoshitake.co.jp](http://www.yoshitake.co.jp))のサポート&サービスからお問い合わせ窓口一覧より最寄りの営業所までご相談ください。